

《2019年度入学生用》

応用化学科

Department of Applied Chemistry

【第Ⅱ群】

専門共通科目

- a) 共通基礎科目
- b) 専門基礎科目
- c) 学部共通基礎科目

【第Ⅲ群】

専門科目 ——— 専門科目

応用化学科は、『「くらし」を支え「みらい」を拓く化学のちから。』を基礎理念としている。「くらし」を支え「みらい」を拓くための課題に対して、化学の力を使って積極的に取り組むことによって、環境に調和した持続循環型社会の実現に寄与し、食品・バイオから次世代エネルギー素材まで、さまざまな産業分野で広く活躍できる健全で幅広い視野、基礎学力、および実践力を備えた化学技術者・研究者を育成することを教育・研究上の目的としている。

その教育目標を達成するために、分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、および生物化学に基礎をおき、高分子化学、触媒化学、ナノテクノロジーなどの最先端の分野で高機能な物質の開発や製造のために活躍できる技術者・研究者を育成する「応用化学コース」、身のまわりの素材や製品開発、食品・バイオ分野の製品開発において活躍できる技術者・研究者を育成する「生活・食品化学コース」の2コースを用意して、それぞれのコースで特色ある教育および研究の展開を図っている。これらの2コースは、内容的にもまた組織形態の上でも密接に相互連携して運営されている。

具体的には、第1学年前期には、大学における学習環境や本学科の教育目標、カリキュラムを理解するために、応用化学概論（必修）が置かれている。専門基礎科目として、第1学年後期と第2学年第1クォーターで、分析化学Ⅰ、無機化学Ⅰ、Ⅱ、有機化学Ⅰ、Ⅱ、物理化学Ⅰ、Ⅱ、および生物化学Ⅰ、Ⅱを必修科目として学ぶ。分析化学Ⅱ、無機化学Ⅲ、有機化学Ⅲ、物理化学Ⅲ、および生物化学Ⅲは選択必修科目として第2学年の第1クォーターあるいは後期で学ぶ。また、いかに理論が進歩しても、対象の多様さと複雑さのために実験による裏付けがもっとも重要であるという化学の特徴から、第1学年に配置した応用化学基礎実験を通して実験の基本を習得し、第2学年では有機化学実験をはじめとする各種実験科目を通して実験の方法論や手順などを学ぶ。さらに、演習による基礎知識の整理と理解も不可欠であることから、物理化学演習Ⅰ、Ⅱ、無機化学演習、有機化学演習が第1、第2学年に配置されている。ハイブリッド留学は第2学年第2クォーターに実施される。この間、必修科目はなく選択科目のみが開講されているため、ハイブリッド留学参加者が進級する上で履修上の問題は生じないよう配慮されている。

2年以上在学し、3年次科目履修条件を満たすと第3学年の授業を受けることができる。第3学年からは応用化学コースと生活・食品化学コースに分かれ、適性や志望に応じて各分野で専門的知識と技能を習得する。専門科目A群には、応用化学系科目（14単位）、生活・食品化学系科目（12単位）、両コースに共通して必要な専門科目（16単位）が設置されている。さらに、他学科の共通科目としてB群も設置されており、各自の希望に合わせてそれぞれの群から自由に選択することができる。例えば、多分野にわたる食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格に必要な専門科目をコース専門科目とともに無理なく修得できるように配慮されている。また、応用化学実験A、B、C、Dを通して、4年次の卒業研究をスムーズにスタートするために必要な実験技術を習得する。

第4学年では、必修科目の卒業論文（8単位）があり、いずれかの研究室に所属して卒業研究を行う。卒業研究はそれまでの3年間の総決算であり、基礎的な分野から最先端の分野にわたる種々のテーマについて、実験と考察を通して、自ら主体的に問題点を見だし、それを解決する能力を学ぶとともに、組織のなかでの協調性を身につける。

最後に、本学科では教職に関する科目を修得することによって、「理科」教員の免許取得への道が開かれている。「理科」教員免許を修得できることは基礎学問を重視している本学科ならではの特徴である。

先進工学部応用化学科 専門科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に教科名・印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。●印は必修科目、●★印の科目は「中学一種(理科)」では必修科目だが「高校一種(理科)」のみ希望する場合は同印のうちで必ず1単位以上修得すること(選択必修)。教科名のみ表示のある科目は選択科目。

1) 共通基礎科目〈第Ⅱ群a)〉

授業科目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備考	
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
〔第Ⅱ群〕 専門 共通 科目	自然科学の歩き方	1				1	講義		◎		○		
	○ 微分	1				1	講義		◎				
	○ 積分		1			1	講義		◎				
	○ 偏微分			1		1	講義		◎				
	重積分				1	1	講義		◎				
	微分・積分演習	1				1	演習		◎		○		
	偏微分・重積分演習		1			1	演習		◎		○		
	線形代数1	1				1	講義		◎				
	線形代数2		1			1	講義		◎				
	線形代数3			1		1	講義		◎				
	線形代数4				1	1	講義		◎				
	○ 物理学1	1				1	講義		◎				
	物理学2		1			1	講義		◎				
	物理学実験					1	実習		◎		○		
	物理学演習	1				1	演習		◎		○		
	○ 化学1	1				1	講義		◎				
	○ 化学2		1			1	講義		◎				
	化学実験					1	実習		◎		○		
	○ 生物学		1			1	講義		◎				
	生物学実験				1	1	実習		◎		○		集中
○ 地学		1			1	講義	●理科	◎					
地学実験				1	1	実習	●★理科	◎		○		集中	
○ 情報処理入門	2				2	講義	●	◎		○			
情報処理演習		1			1	演習		◎		○			

2) 専門基礎科目〈第Ⅱ群b)〉

授業科目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備考	
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
〔第Ⅱ群〕 専門 共通 科目	○ 応用化学概論	2				2	講義		◎				
	○ 無機化学Ⅰ		2			2	講義		◎	○	○	○	
	○ 有機化学Ⅰ		2			2	講義		◎	○	○		
	○ 生物化学Ⅰ		2			2	講義		◎	○	○		
	○ 物理化学Ⅰ		2			2	講義		◎	○	○		
	○ 分析化学Ⅰ		2			2	講義		◎	○	○		
	○ 無機化学Ⅱ			2		2	講義		◎				
	○ 有機化学Ⅱ			2		2	講義		◎	○			
	○ 生物化学Ⅱ			2		2	講義		◎	○			
	○ 物理化学Ⅱ			2		2	講義		◎	○	○	○	
	△ 分析化学Ⅱ			2		2	講義		◎	○	○		
	△ 無機化学Ⅲ				2	2	講義	理科	◎				
	△ 有機化学Ⅲ				2	2	講義		◎	○	○	○	
	△ 生物化学Ⅲ				2	2	講義		◎	○	○	○	
	△ 物理化学Ⅲ				2	2	講義		○	◎			

先進工学部応用化学科 専門科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に教科名・印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。●印は必修科目、●★印の科目は「中学一種(理科)」では必修科目だが「高校一種(理科)」のみ希望する場合は同印のうちで必ず1単位以上修得すること(選択必修)。教科名のみ表示のある科目は選択科目。

2) 専門基礎科目〈第Ⅱ群c)〉

授 業 科 目		単位数および標準履修学年					授 業 形 態	教 職	学位授与の方針				備 考	
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
「第Ⅱ群」 専門共通科目	c) 専門共通基礎科目	生命化学概論	1					1	講義	◎	○			
		環境化学概論	1					1	講義	○	◎			
		有機化学基礎		1				1	講義	◎	○			
		応用物理学序論	2					2	講義	○	◎	○	○	
		機械理工学概論			1			1	講義	○	◎		○	
		地球環境工学		2				2	講義		◎			
		物理数学		2				2	講義	◎	○	○		
		回路理論Ⅰ		2				2	講義	◎	○	○		
		プログラミング論Ⅰ		2				2	講義	◎	○	○		
		工学基礎英語1			1			1	演習	○		◎		
		工学基礎英語2				1		1	演習	○		◎		

3) 専門科目〈第Ⅲ群〉

授 業 科 目		単位数および標準履修学年					授 業 形 態	教 職	学位授与の方針				備 考	
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
「第Ⅲ群」 専門科目	実験系	応用化学基礎実験		2				2	実習	●★理科	◎	○	○	
		△ 有機化学実験			1			1	実習		○	◎	○	○
		△ 分析化学実験			1			1	実習		○	◎		
		△ 物理化学実験			1			1	実習		○	◎		
		△ 生物化学実験			1			1	実習		○	◎		
		△ 応用化学実験A				1		1	実習	理科	○	◎		
		△ 応用化学実験B				1		1	実習	理科	○	◎	○	○
		△ 応用化学実験C				1		1	実習	理科	○	○	◎	○
		△ 応用化学実験D				1		1	実習	理科	○	○	◎	○
		○ 応用化学特別実験						2	実習			◎	○	○
	演習系	○ 物理化学演習Ⅰ		1				1	演習		◎			
		物理化学演習Ⅱ			1			1	演習		◎			
		無機化学演習			1			1	演習	理科	◎			
		有機化学演習			1			1	演習		◎	○	○	
	A 群	卒業論文					8	8	卒論			◎	○	○
		化学工業の魅力				2		2	講義		◎	○	○	○
		化学者のためのプロセス工学				2		2	講義		◎	○		
		化学者のための機械工学				2		2	講義		◎			
		機器分析				2		2	講義		○	◎		
		有機工業化学				2		2	講義		○	◎		
量子化学					2		2	講義	理科	○	◎	○	○	
電気化学					2		2	講義	理科	○	◎	○	○	
化学者のための電気計測						2	2	講義		◎	○	○	○	
高分子合成化学					2		2	講義		○	◎	○	○	
無機固体化学					2		2	講義	理科	○	◎			
表面工学					2		2	講義		◎				
高分子物理化学					2		2	講義	理科	○	◎			
触媒設計					2		2	講義	理科	○	◎	○	○	
機能性先端材料				2		2	講義	理科	○	◎	○	○		
錯体化学				2		2	講義		○	◎				

先進工学部応用化学科 専門科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に教科名・印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。●印は必修科目、●★印の科目は「中学一種(理科)」では必修科目だが「高校一種(理科)」のみ希望する場合は同印のうちで必ず1単位以上修得すること(選択必修)。教科名のみ表示のある科目は選択科目。

3) 専門科目〈第Ⅲ群〉

授 業 科 目		単位数および標準履修学年					授 業 形 態	教 職	学位授与の方針				備 考	
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
A 群	生活・食品化学					2					◎			
	薬品分析化学					2					◎			
	栄養化学					2					◎			
	界面化学					2					◎	◎	◎	
	公衆衛生学					2					◎	◎	◎	
	食品化学					2					◎	◎	◎	◎
B 群	微生物学					2					◎	◎	◎	◎
	くらしと化学					1					◎	◎	◎	
	安全化学					1					◎	◎	◎	
	化学工学基礎					1					◎	◎		
	物理化学概論					1					◎	◎		
	無機・有機材料概論					1					◎	◎	◎	
	真空応用機器					1					◎	◎	◎	
	微細加工技術					1					◎	◎		
	機構学及び機械要素					2					◎	◎		
	物理学総論					2				●理科	◎	◎		
	応化物理学実験					1				●★理科	◎	◎	◎	
	化学総論					2				●理科	◎	◎		
	生物学総論					1				●理科	◎	◎		
	応化生物学実験					1				●★理科	◎	◎	◎	
	生体物質代謝					2						◎		
	創薬化学					2						◎		
	免疫化学					2					◎			
	生物物理化学					2					◎	◎	◎	◎
	酵素化学					2					◎	◎	◎	◎
	遺伝子工学					1						◎	◎	
	微生物実験								1		◎	◎	◎	◎
	鉱物と結晶					2				理科	◎	◎	◎	◎
	知的財産権法					1					◎	◎		
	実務のための知的財産権					1					◎	◎	◎	◎
労働法規								2		◎	◎	◎	◎	
学外研修					2							◎	◎	
技術開発英語 A					2					◎		◎		
技術開発英語 B					2					◎		◎		

◇応用化学科 履修規定と履修上の注意〔2019年度入学生用〕

■ 3年次科目履修条件、卒業論文着手条件及び卒業条件

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	67単位 (必修31単位を含む)	12単位 8単位 (必修6単位を含む) 2単位 (必修2単位を含む)	14単位 8単位 (必修6単位を含む) 2単位 (必修2単位を含む)
	[第Ⅱ群] 専門共通科目		a) 共通基礎科目	10単位 (必修10単位を含む)
b) 専門基礎科目 c) 学部共通基礎科目			26単位 (必修20単位を含む) (選択必修5科目から3科目 (6単位) を含む)	26単位 (必修20単位を含む) (選択必修5科目から3科目 (6単位) を含む)
[第Ⅲ群] 専門科目			実験系	8単位 (2年次実験系4科目中3科 目, 3年次実験系4科目中3科 目を含む)
	演習系		3単位 (必修1単位を含む)	3単位 (必修1単位を含む)
	A群		29 単 位 (共通専門科目8単位以上、コ ース選択8単位を含む)注1)注 2)	29 単 位 (共通専門科目8単位以上、コ ース選択8単位を含む)
	B群			
	卒業論文系		化学系特別枠を含め、 最大8単位まで算入できる	化学系特別枠を含め、 最大8単位まで算入できる
合計	112単位 (自由枠として最大14単位 まで含むことができる)		124単位 (自由枠として最大14単位 まで含むことができる)	

<進級に関わる注意事項>

注1参照) 3年次科目のうち、応用化学コースはA群応用化学分野から、生活・食品化学コースはA群生活・食品化学分野から、それぞれ8単位以上を修得する。

注2参照) 卒業論文着手条件化学系特別枠として、生命化学科および環境化学科第Ⅲ群A群の専門科目から最大8単位まで履修し、応用化学科の専門科目(B群)とすることができる。履修のできる科目として次の科目を指定する。

生命化学科＝分子生物学、有機化学Ⅳ、有機化学Ⅴ、創薬化学、ケミカルバイオロジー、植物生理学、環境生物化学
環境化学科＝移動現象、分離工学、化学装置設計、土壌環境工学、環境エネルギー工学、環境材料化学、高分子材料化学、機械工学・材料加工学概論・化学工業総論

<その他の科目修得ルール>

■ コース制について

3年次に応用化学コース、生活・食品化学コースのいずれかを選択する。

■ 2年次以降に開講される実験系科目を履修するには「化学実験」または「応用化学基礎実験」のうち少なくともどちらか一方を履修しておくこと。

■ 3年次実験科目「応用化学実験A、B、C、D」は、選択必修4科目中3科目以上修得する必要がある、「安全化学」と「科学と倫理」を既に履修しているか、並行して履修していなければ受講できない。

■ 第Ⅲ群実験系「応用化学基礎実験」を履修するには、第Ⅱ群a) 共通基礎科目「化学実験」を履修しておくことが望ましい。

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程について

食品衛生法上の区分A群からD群の科目については、必修科目を取得の上、選択科目から8単位以上、合計34単位以上取得し、食品衛生法上の区分E群の科目については、必修科目を取得の上、選択科目から8単位以上、合計10単位以上取得し、全体で総単位数44単位以上取得すること。ここでいう必修科目と選択科目は、本養成課程において指定されるもので、応用化学科の指定とは異なる場合がある。

他の養成施設より編入学する場合には、本養成課程修了条件に算入される場合があるので、学科長に相談すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有（学則の定めにより）

工学院大学先進工学部応用化学科 食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程について

■「食の安全」：応用化学の視点から

工学院大学先進工学部応用化学科では、「応用化学」を“人間が必要としているものは何か、暮らしの中で何を改善しなければならないのかという課題に、化学の立場から取り組み、実践的に解決する学問”として捉えている。そして、このような視点から「いのち」と「暮らし」を見つめ、より良い生活環境を創造するための教育や研究を進める。「応用化学」の内容は時代の要請に応じて変化していくものであるが、本学科では、身近な生活の問題をより広く扱うことが今の社会の要請であると考え、食品化学の領域を「応用化学」の中に位置づける必要があると判断した。近年、食の安全に関係する事件等が続いて起き、社会的に大きな関心を呼んでいる。食の安全が、今後も多くの国民の関心事であることは論を待たない。このような状況の中で実際に食品の管理の素養をもった人材を育成することは、強い社会的な要請であると考えている。言うまでもなく、食品衛生の管理や監視の業務においては、化学的な分析の技術はかなり重要な部分を占めている。本学科では分析化学の基礎的な教育が徹底されている一方、生物化学の領域の専門教育にも力を注いでいる。このような素養をもつ人間が食品化学の領域へ展開しようと考えているのはごく当然のことであり、また、きわめて望ましいことでもある。確かな化学の基礎を修得した技術者がこの領域で一定の役割を果たすようになることは、食の安全管理の質を高める上で大きな意味をもつと考えている。

■食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程の履修について

本養成課程は、食品衛生管理者および食品衛生監視員の養成施設として、厚生労働大臣に登録申請し、認可された。平成27年4月1日以降に入学した者は、応用化学科で開講される科目で、本養成課程で指定された科目を所定数修了すると、食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格要件を満たすことになる。

■本養成課程修了条件

食品衛生法上の区分A群からD群の科目については、必修科目を取得の上、選択科目から8単位以上、合計34単位以上取得し、食品衛生法上の区分E群の科目については、必修科目を取得の上、選択科目から8単位以上、合計10単位以上取得し、全体で総単位数44単位以上取得すること。ここでいう必修科目と選択科目は、本養成課程において指定されるもので、応用化学科の指定とは異なる場合がある。

■編入学について

他の養成施設より編入学する場合には、本養成課程修了条件に算入される場合があるので、学科幹事に相談すること。

工学院大学先進工学部応用化学科食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程の履修表

区 分	基本科目名	左記科目に該当する申請 科目名	選択別		単位 数計	備 考	
			必	選			
A 群 化学関係	分析化学	分析化学Ⅰ	2		2	注) A群からD群 まで34単位以上 取得し、E群を含 めて総単位数44 単位以上取得す ること。	
		分析化学Ⅱ	2		2		
		分析化学実験		1	1		
	有機化学	有機化学Ⅰ	2		2		
		有機化学Ⅱ	2		2		
		有機化学演習		1	1		
		有機化学実験		1	1		
	無機化学	無機化学Ⅰ	2		2		
		無機化学Ⅱ	2		2		
		無機化学演習		1	1		
		物理化学Ⅰ	2		2		
		物理化学演習Ⅰ		1	1		
	B 群 生物化学系関係	生物化学	生物化学Ⅰ	2			2
			生物化学Ⅱ	2			2
生物化学実験				1	1		
食品化学		2		2			
生理学			2	2			
食品分析化学		機器分析		2	2		
		応用化学実験C	1		1		
C 群 微生物学関係	微生物学	微生物学	2		2		
		生物学		1	1		
		微生物実験	1		1		
D 群 公衆衛生関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2		2		
	疫学	免疫化学		2	2		
A群からD群の必修科目を取得の上、A群からD群の選択 科目から8位以上取得し合計34単位以上取得すること。		小 計	26	14	40		
		最低取得単位数小計	26	8	34		
E 群 その他関連科目	栄養化学	栄養化学	2		2		
	植物生理学	生物化学Ⅲ		2	2		
	酵素化学	酵素化学		2	2		
		生物物理化学		2	2		
	遺伝学	遺伝子工学		1	1		
	生物有機化学	創薬化学		2	2		
	高分子化学	高分子合成化学		2	2		
		高分子物理化学		2	2		
	その他	薬品分析化学		2	2		
界面化学			2	2			
E群から必修科目を修得の上、E群から選 択科目から8単位以上取得し合計10単位以 上取得すること。		小 計	2	17	19		
		最低取得単位数小計	2	8	10		
A群からE群の必修科目および選択科目の総単位数					59		